

『生活集団イコール学習集団』が一番健全なカタチ

少人数学級



文教委員会 12月18日

村上あつ子議員の質問

少人数学級を認めた国の通知

村上議員は、30人以下学級の早期実現を求める請願にふれ、少人数学級を導入しているところに対して来年度から加配教員の転用を認める文部科学省通知(03年11月)について、市教育委員会の説明を求めました。

市教委は、「従来は少人数指導のみに加配を活用するものだったが、文科省通知は、来年度から都道府県の教育委員会の判断で、少人数学級への活用も認めるといふもの」と説明しました。

この説明をうけて村上議員は、市教委から市教委に対し、この通知に関する何らかの動きはあったかと質問。

市教委は、国の方針が示された事は市教委から聞いたが、具体的な協議はしていないと答弁。また、各学校は、来年度の少人数指導の加配計画をすでに市教委に申請しており、各学校で実情が違ふことから、来年度から少人数学級を即実施することは難しいとの見解を示しました。

村上議員は、すでに30道府県が35人以下の少人数学級を実施しているもと、文科省通知は国が教員給与などの財政上の問題を残しつつも少人数学級を認めたものであり、積極的に具体

化に取り組みよう求めました。

目が届きやすくなっても

学級がバラバラになるのは問題

村上議員は、「はつらつプラン」の導入で学校現場に混乱があったことをあげ、市教委がプランをどう評価しているのか質問しました。

市教委は、2つの学級を3つに分けることなどについて改善を望む学校現場からの要望をうけ、来年度からは、1学級を2つに分けることで学級集団の枠を壊さない弾力的活用ができるようにしたと説明。少人数になったことで、「発表や質問の機会が増えた」「学習に集中でき、理解度が高まった」「個別指導できる時間が増えた」などといった声を現場から聞いていると答えました。

村上議員は、「目が届きやすくなつた」とのことだが、問題は教科ごとに学習集団がバラバラになってしまうこと。習熟別などで学級を解体するのではなく、『生活集団イコール学習集団』であることが一番健全な形」と強調。また、学級編成は市教委にあるという市教委の答弁について、秋葉市長が段階的に少人数教育を実現することを公約していることをあげ、市教委として公約実現に向けてどう取り組んでいるのか質問しました。

市教委は、「現在、国において県と政令市間の県費負担教職員制度が見直

されており、その中で、学級編成権を政令市に移譲することが検討されている」と述べ、こうした国の動向を見ながら、「児童・生徒の発達段階」「教科の特性」「小学校・中学校間の円滑な接続」などを考慮した市独自の少人数教育の段階的プランの作成に取り組んでいく考えを示しました。

はつらつプラン

中学校1年の国語・数学・英語について、平均30人を超えるところに非常勤講師を配置して少人数指導を実施。市教委の施策として02年度に導入。

文教委員会に付託された 請願の審査結果

	『30人以下学級の早期実現』などを求める請願	私学助成についての請願
請願者	広島市ゆきとどいた教育をすすめる会(35,819筆)	広島県私学助成をすすめる会(121団体)
紹介議員	日本共産党	全会派
審査結果	継続審査	採択

ぜひ傍聴を!

公共事業見直し委員会

1月26日(月)午前10時～12時
広島市役所 本庁舎 2階講堂

シンポジウム

大型焼却炉とゴミの減量を考える

食の安全とゴミの減量を考える実行委員会主催

とき:2月14日(土)午後1時30分～4時 ところ:安佐南区民文化センター 3階 大会議室

パネリスト:岩佐恵美(いわさ えみ)さん(日本共産党参議院議員)

中根周歩(なかね かねゆき)さん(広島大学大学院教授・環境生態学)

竹内 功(たけうち いさお)さん(広島市環境局環境政策課 課長)

問い合わせ先

広島北民主商工会 TEL 082-879-4060

実行委員会事務局・名越 TEL 082-879-6980

◎フェンスもない!
◎雨が降れば
道路の端もわからない!

すぐに通学路の安全対策を

2003年9月、安佐南区の八木用水路で転落死亡事故が発生したのをうけ、日本共産党市議団は現地調査に入りました。

八木用水路では、転落した子どもを通りかかった大人が慌てて助ける事態も起きており、地元では数年前から安全対策を求める声が出ていました。

調査をおこなった村上議員は、「用水路の幅が広く水量も多い。雨が降れば、路面と水位が同じ高さとなって道路の端がわからなくなるところもある。歩道もなく、車が行き交う道路を子どもたちが通学路として歩いている」とその危険性を強く指摘し、市の認識をたどりました。

市教委は、「学校の意向を把握し、必要があれば安佐南区役所のほうに要望していきたい」と答えました。

村上議員は、学校が用水路側を通らないよう登下校指導し



フェンスもなく幅の広い安佐南区・八木用水路(手前は藤井とし子議員)

たり、登校時には要所要所に保護者などが立っている現状をあげ、「子どもたちは登下校だけでなく、塾通いで夜間も通る」と強調し、早急に区役所、農業用水路管理組合と対策を協議するよう求めました。

教員の健康悪化は

きびしい労働実態が原因 !!

教員も始業・終業時刻と超勤の記録を

村上議員は、教育長が本会議で「教員の超勤については、時間外手当というのはなじまない」と答弁したことについて、市教委として教員の超勤実態をどう把握しているのか質問しました。

市教委は、「教員の勤務は、教員の自発性、創造性に期待する面が大きく、超勤を時間的に計測することは難しい」と述べ、いわゆる時間外勤務手当てはなじまないと答弁。また、2000年度に市教委がおこなった調査については、「正確さに欠ける」と前置きしつつ、その結果をうけて、超過勤務の縮減のために、職員会議や公務運営の効率化を図るよう校長に指導していると説明しました。

村上議員が、「先生が教材の準備を家に持ち帰っている実態が現実にある」と指摘したことに対して市教委は、教材準備なども自発的な勤務として期待されるとの考えを示しました。

村上議員は、厚生労働省がサービス残業是正のため、事業所に始業・終業時刻を把握するよう通達を出していることをあげ、「教員自身が勤務時間

の把握と超勤を自覚するうえでも、学校で始業・終業時刻と超勤の記録をとる必要がある」と指摘しました。

健診を受けた教員の1割超が「要注意」となる事態

教員の健康実態の把握について市教委は、校長が定期健診後に保健担当医(各校に配置)の意見を聞き、必要と認める場合は、保健指導や就業上の配慮など事後措置を講じており、その状況報告が市教委教職員課に上がるようにしていると説明しました。

村上議員は、健診を受けた教員のうち、1割を超える人が『要注意』の結果であり、退職者もこの3年間増え続けている原因をどう考えるか質問。

市教委は、「これが原因という分析は難しい。生活習慣病や高血圧などが上位を占めている。長期退職者は悪性腫瘍(ガン)が多い」と答えました。

校長を指導するだけでは教員の健康悪化は止まらない

村上議員は、「先生が忙し過ぎるということではないのか」と指摘しましたが、市教委は、「教員の超過勤務の縮減

現場を見ながら 現状分析を

を校長にも指導している」と述べるにとどまりました。

村上議員は、「校長の指導にゆだねては、今度は校長が倒れてしまう。定年前の退職が増えているのも厳しい労働実態が原因ではないのか」と強調し、抜本的な対策を求めました。

市教委は、生徒・保護者の複雑多様化に対し、「残念ながら学校教育体制が旧態依然のままになっている現実がある」と認め、それが教員に重くのしかかって指導困難、学級崩壊、教員の健康悪化へとつながっていくのではないかと答弁しました。

村上議員は、「実態に即した教育をおこなっていくためには、現状の分析が非常に重要」と指摘し、ぜひ現場を見ながら取り組むよう求めました。

教員の健康状況(市教委答弁)

●診断結果後、指導が必要な「要注意」者数

2002年度 約6千人の
診断人数のうち、651人

●全市立学校の退職者数

2000年度 65人
2001年度 73人
2002年度 79人